

灘菊酒造の「ロンドンバス」

姫路の酒蔵、灘菊酒造(「手柄」)の駐車場に鎮座している赤い車体のロンドンバス。真つ赤に塗られた2階建ての車体は、本場・イギリスのロンドンのほか、1997年までイギリスの植民地だった中国の香港などで路線バスとして走ってきた「ルートマスター型」と呼ばれる伝統的な形式で、もちろん本物です。

なると管理上の問題から撤去されることになりました。FUTABA側は当時、やっと普及し始めたインターネットを通じて「バス全体を引き取ってくれる人」「部品だけでも引き取ってくれる人」を探したものの、希望者は現れなかったとい

ほか、1階席は、観光バス乗務員の待機スペースとして使われています。

なおルートマスターは、すでにロンドンや香港では保存車両を除いて現役を引退し、ほぼ姿を消した貴重な存在。それだけに「ネット

フリモ認定

姫路遺産

ひめじ
いざん

このロンドンバスが香港

から姫路へやって来たのは、1983(昭和58)年のこと。

当時は国鉄の民衆駅だった旧姫路駅ビルのテナント「姫路駅デパート」が、ファッションビルとしてリニューアルされ「ESTA」に名前を変えたとき、ビルのイメージを一新しようと屋上へ据え付けられたものです。

ロンドンバスは大手前通りからもよく目立ち、ビルの象徴として親しまれてきましたが、1990年代に

います。

これを惜し

んだのが、灘菊

酒造の社長川

石雅也さん。

バス全体を引き取ることに

決め、酒蔵前の駐車場にH型鋼材を組んだ土台を用意し、エアコンなどを取り付けて活用することになりました。

現在、バスは見晴らしがよい2階席を観月などのイベントで用いることがある



などで聞きつけたロンドンバスのファンが時たま訪れることもある」と川石さん。姫路を、灘菊酒造を観光で訪れる人々にかわいがってもらいながら、静かな余生を送り続けてほしいものです。